



2017.3.17 から

8年7ヶ月

被災地で生きる...



～南相馬市～



「震災」の逆境を乗り越え、ひたむきに生きてきた方々の聞き取りをしようと思い立った。それぞれに環境の異なる5人に、聞き取りの是非を聞いた。皆さん快く引き受けてくれた。農業の福田さん宅は2回お邪魔した。深く味のある話で別稿したいほど。橘さんは、「津波・原発」に翻弄され、ようやく故郷小高区に落ち着いた話。但野さんは、福島在住で会えなかったが電話で会話。菅野さんは、一人暮らしなので良き話し相手だったのか、3時間に及んだ。友人の岩橋さんは、ありのままの話。橘さん・菅野さんを紹介して頂きご一緒した。お忙しいにも関わらず、心情を吐露された5人の皆さんに、心から感謝を申し上げます。

環境省 環境カウンセラー 長澤 利枝 2019年9月20日作成





ボランティアガイド

原町区在住

みつよし
岩橋光善氏(75才)

- ◆ 3.11 地震後、勤め先から浜街道を帰宅途中、午後 4 時 5 分ごろ、南相馬市小高区浦尻地区に着いた瞬間、15m を越える大津波に遭遇。間一髪で「命拾い」をした。
- ◆ これからの人生は「人の役に立つことをする」と決めた。
- ◆ 資格、肩書きだけで 10 以上ある。震災後取得、ボランティア活動に活かしている。
- ◆ ガイドは好評だ。自然・歴史に詳しく、自身の津波体験が人々の心に沁みる。
- ◆ 常に「即決即断」「全力投球」。
- ◆ 仲間たちと地域活動を続けている。



塚原海岸巨大アート製作中



「セデッテかしま」震災展示



「銘醸館」で甲冑と野馬追説明



甲冑着付け体験まちあるき



甲冑着付け体験 武山家で



かながわ環境カウンセラー仲間たち



高齢者の料理教室

食生活改善の一環として、2ヶ月に1回実施している。男性6人参加

【思い入れ】

平成30年任意団体「心ひとつに野馬追伝承会」を設立し会長として約30人の会員と活動している。

目的は、相双地方で唯一まとまることが出来るのは「野馬追」。一千有余年続いていると伝わる「野馬追」も、騎馬武者の減少、騎馬会の在り方など、時代の趨勢に直面している。

本会は、「野馬追」を継承していくための応援活動を実施するため、「野馬追」観光ガイド、甲冑着付け、歴史文化の勉強会を続ける。子供たちに教育現場等で「野馬追」を伝承する取り組みの要望をしている。



福田農園代表

原町区在住

福田 ^{えいいち} 栄一氏(68才)

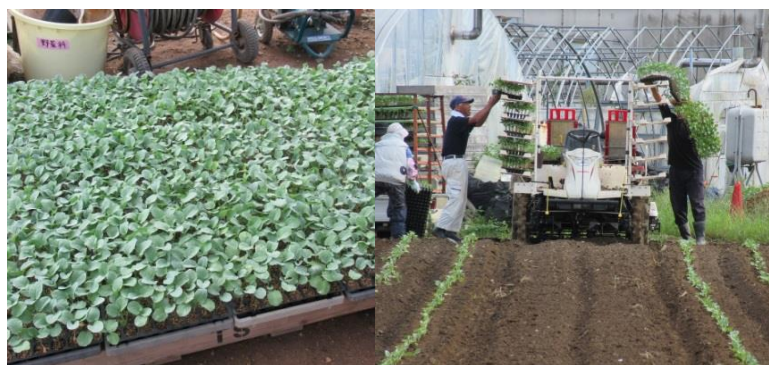
- ◆ 震災で農業への意欲を失った。それまでは水田、ブロッコリー、トマトを栽培。
- ◆ 震災後9月、北海道の取引先大手「札幌マルカ」の常務さんがお見舞いと営農再開を促すために来た。「ブロッコリーを栽培しないと、JA相馬の出荷枠がなくなる」～この言葉で営農再開を決意した。
- ◆ 栽培効率・雇用・作業工程にこれまで培った農業実績が生かされている。
- ◆ 今年9月、第60回県農業賞表彰式で、特別功労賞を受賞。他の部門でも受賞あり。



福島県特別功労賞受賞



トマトハウス栽培は、「イスラエル方式」(風評被害払拭のため)



ブロッコリー苗 植え付け最盛期



2台の機械を稼働させ、苗を植え付けていく。3人が苗運び、荷台の苗を移動、植え付けた苗の修復作業をする。

【経営としての農業を求めて】

震災から8年。ようやく営農の実績を実感し始めた。20haの水稲は「天のつぶ」。背丈が低いので育成し易い。ブロッコリは8ha、70tを北海道へ「氷結出荷」している。この方法は、後押しの恩人からのアドバイスだ。

人とのつながりと諦めない気持ちで、これまで続けて来た。長男が後継者。頼もしい。

近所の方々に、パートでブロッコリーの植え付け、収穫の仕事を依頼している。仲間たちと楽しく働いている。法人化をせずに、「福田農園」の手法が、働く人たちの安心感だ。

移住した若者が、玉ねぎ栽培に苦労している様子に、さりげない助力をしている。「2人の若者が加わり、面白いようだ」と、笑顔で話した。

心豊かな福田さんは、稀有なリーダーだ。



小高鍋屋金物店

小高区在住

たちばな

橘 由美子氏(56才)

- ◆ 家族、従業員で金物店を営んでいた。
- ◆ 地震で家屋倒壊。津波が来たので、家族で高台(小高工業高校)に避難。
- ◆ 3月12日、原発で避難命令。車2台で鹿島区桜ホール避難する。どこの避難所も人で溢れていた。会津若松市河東体育館に辿り着く。
- ◆ 1か月後、相馬市の住宅を借り、新潟に避難した祖母・母親を呼び家族全員が揃った。
- ◆ H24年父親亡くなる。H26年祖母が逝く。
- ◆ H28年帰還困難区域解除後、亡き父親の店への思いと、家族の合意で店の新築を決めた。
- ◆ H29年6月10日開店。母親は開店前4月15日亡くなった。震災は私たちの家族に大きな試練を課した。
- ◆ 金物店が、小高に戻った3,800人のコミュニティの場になることを願っている。



昔ながらの日めくりカレンダー



震災前の店舗



H29年開店した新店舗



小高に戻った馴染みのお客さんと



【これからの思い】

開店から2年、主人と二人三脚でやって来た。息子は、大工職人として8年目の修行に入った。ようやく、家族の居場所が落ちついた。今後、鍋屋伝来「建築金物・ガラス修理」等、商売の専門性を高めていくことが目標である。帰還したお得意さんが、金物を買いに来る。お互いの暮らしを語り合う。元気の源である。

震災で父親・祖母・母親を相次いで亡くした。「震災関連死」の認識だったが認められなかった。お店を開いたことは本当に良かった。



【小高商工会婦人部の一員として】

地域活動

平成25年に戻って来た会員約26人は「ふれあい広場 ひまわりカフェ」を開いた。

交代で土・日の2日間オープン。



「花の寄せ植え講座」大好評 講師 但野美奈さん

フラワーデザイン専門学校卒業

ただの
但野 美奈さん(21才)

- ◆ 福島県立相馬農業高等学校園芸クラブは、平成24年復興再生事業「にじをつなぐ～友・有・悠」から、花の寄せ植え講座のボランティアを続けている。
- ◆ 但野美奈さんはクラブ員の一人。
- ◆ 当時、高校生たちは来場者に元気を与えようと、手作りのメッセージを掲げた。
- ◆ 卒業後も、イベントに欠かさず来て、花の寄せ植え講座を担当している。
- ◆ 同級生も応援に来る。
- ◆ 教え方が丁寧なので、とても人気がある。
- ◆ 終了後、課題・反省を我々に伝える。
- ◆ 実行委員として一番若いメンバーだ。



相農生たちの元気を与えたメッセージ



「寄せ植え講座」生徒さん指導 手作りジャム・クッキー売り



会場設営チェック



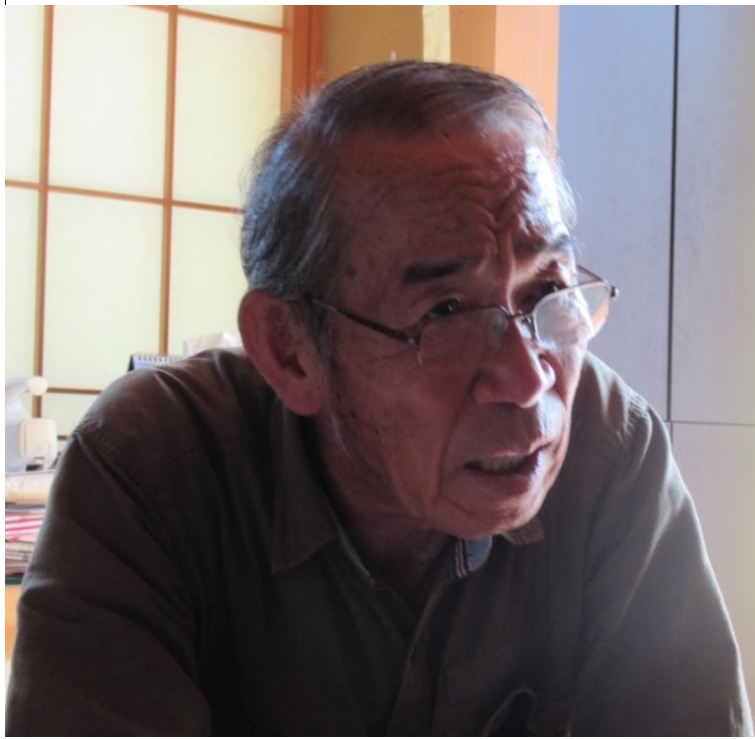
手前 美奈さん 教え方上手

【美奈さんの希望】

実家は、家族と従業員で経営する大きなフラワーショップ。素直でのびやかな性格で、皆に好かれている。福島市でフラワーアレンジメントの仕事に就く。現在は、接客を学ぶために他の業界で働く。忙しいので実家には、なかなか帰れない。今年のイベント終了後、仲間たちとタッチ。

「南相馬市に帰って結婚したいな！」





前北郷侍大将 鹿島区在住

菅野長八氏(67才)
ちょうはち

- ◆ 津波で妻・息子・娘・母親を亡くし、自分だけ残った。生きる気力を無くす。
- ◆ 周囲の励ましにより、「残された一人として、四人分を生きていこう」と気持ちの切り替えをした。
- ◆ 震災直後から、野馬追の是非について、執行役員や理事たちで議論が交わされ始めた。北郷侍大将であり、その他の役員・理事をしていたので、相談を受けた。
- ◆ 一方で「家族に不幸があった年は、野馬追出陣を控える」決まりだったので、出陣はしない〜との思いもあった。
- ◆ 震災後7月野馬追は「鎮魂と安寧」を祈ると決定した瞬間、家族の後押しを全身で感じ、侍大将として出陣を決めた。
- ◆ 今年は、長年役職を務め、騎馬武者育成等によって「功労者」として出陣した。



震災前の菅野家 広い屋敷 津波翌日 家は土台のみ



右送られてきた兜一式
 ~流失を知った見知りぬ東京在住の弁護士さんから



震災前年亡き息子さんの勇姿



今年の「野馬追」功労者として出陣



北郷騎馬武者陣屋



津波跡地で菅野さん自ら発見！
 泥まみれの「侍大将」肩章

【野馬追への思い】

親の代から「野馬追」に出陣。生活の中に溶け込んで過ごした。支部長として15年貢献。平成24年「北郷侍大将」任命。

有形文化財の「野馬追」が、大きな課題に直面している。今年の騎馬数が400騎に至らなかったことは、痛恨の極み。避難の現実を別に、「野馬追」に出たい人の発掘と育成、馬の受け入れ環境づくり、出馬助成金の在り方、市民の関心度を高める等、手を付ける時期である。